

サイクリスト 特集 石狩にときめく

全国的に高まるサイクリングニーズ。「自転車の何が楽しいの?」というあなたにお届けする、石狩ならではの自転車の楽しみ方です。 企画課交通担当 ☎72・3193



「登り坂はむしろあったほうが良いですね。平坦だけではあきちゃいますから」
石狩市民の水崎さんは、日々自転車を愛用。通勤にも片道40分ほどかけて自転車で通うほか、休日

「もちろん知っていますよ! ぼくもよく走っていますから」
となれば話は早い! 編集部

はさっそく水崎さんにお願ひし、石狩のサイクリングコースの魅力を現地で存分に語ってもらったことにしました。

「特に高岡地区はトレーニングにはもってこいの場所。交通量も少なく、適度な起伏もあり、知る人ぞ知るスポットですよ」
そんな水崎さんに聞きました。

「石狩には、まちが推奨する12のサイクリングコースがあるのをご存じですか?」

「3、4時間ノンストップでは100kmを超える距離を走破していると言います。」

「市役所発着の「上級コース」。走行距離115.2km、自転車7時間40分を想定する堂々たるコースは、道の駅石狩「あいろーど厚田」、当別ダム、道の駅とうべつ、石狩川沿いを走るゴールデンルートです。」

「その中で水崎さんが選んだスポットは、まず石狩湾が一望できると、望来ビュー。」

「手前にはきつい坂が立ちはだかりますが、登りきったその先に広がる海岸線や美しい山並みなどの景色に疲れも忘れるのだとか。」

「車の移動では決して味わえない感動が待っていますよ」と水崎さん。

「登り坂は大変。でも自分の力では上がってきたという達成感もまた、ひとしおなんです」
下り坂で爽快感も味わいながら次に向かったのは道の駅石狩「あいろーど厚田」。中でもおすすめは涼しげな林間コースになっていて、「静かで空気がきれい。リスやタヌキなどの小動物に出会うこともありますよ」
極めつけのおすすめスポットは石狩川沿いの直線で、モデルルート※にも設定されました。

若きサイクリストの日常



みずさき まこと
水崎 真さん

高校生まで野球一筋、大学時代から自転車部に所属して本格的なサイクリストに。今では年に3、4の競技大会に出場し、表彰台に上った経験も。「自転車を介して友達も増え、年上の方との交流もするようになりました」

坂と風景と、スイーツと



望来ビュー



石狩川沿いの「気持ちの良い一本道」



車に自転車を積んで、目的地でサイクリングするのが「6(シックス)ホイール」。市が提唱するスタイル。



「道の駅ANNEX(アネックス)」でけずりいちごを食べる水崎さん。「海や山を眺めながら、外で食べられるので、休憩するのにとてもいいですね」

※北海道のサイクリストリズム推進に向けた検討委員会が設定しているルート

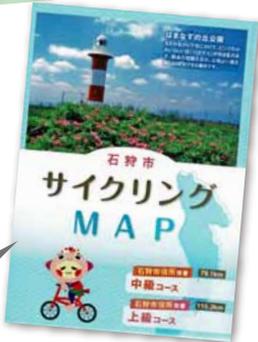
info+ 北海道命名150周年を記念して、北海道沿岸約2,400kmを22日間かけて走破する「北海道一周ライド(北海道サイクリング協会主催)」が7/2(月)に石狩市役所からスタートし、道庁赤れんが庁舎にゴールしました。



道の駅石狩「あいろーど厚田」には、専用の駐輪スペースとしてサイクルラック2台を設置し(6ページ参照)、空気入れと工具セットを常備。サイクリストにやさしい道の駅です。



石狩市
サイクリングMAP
石狩の風景を眺めながら、多くの方が楽しめるよう初級・中級・上級別の12コースを設定。世界で活躍している自転車の有識者が監修しています。



市HPか、
主要観光施設で
ゲット!

取り入れてみませんか！

ゴール地点の市役所で、水崎さんにあらためて聞きました。
——石狩はサイクリストにとってどんなまちですか？
「道が広いので安心して走ることがができます。景色もきれいで、例えばうっすら雪の積もった畑を眺めながら走るといいうのも僕

は大好きです。風だつて向かい風があるなら追い風もあるので、そういうことを考慮しながらコースを選んで走るといいうのも楽しいんです」
* * *
サイクリストの多くが「自転車」だからこそ感じる事ができる季節感や、見えてくる景色があると言います。日々の暮らしの彩りとして、皆さんもぜひ「自転車」を積極的に取り入れてみませんか！

自転車でも日常にも旅^{トリップ}を



あいろーどパークから厚田キャンプ場へつながらる林間コース